

令和6年3月12日

法人企業景気予測調査

(令和6年1-3月期調査)

【京都府下の調査結果】



政府統計

6年1-3月

現状判断は2期ぶりの「下降」超 (▲9.9%ポイント)

【概要】 ※特に断りがない場合、計数は全規模・全産業

1. 企業の景況（景況判断BSI）

- 6年1-3月の現状判断は2期ぶりの「下降」超 (▲9.9%ポイント)。
- 先行きは、「上昇」超 (翌期(4-6月)+3.1%ポイント、翌々期(7-9月)+6.3%ポイント) で推移する見通し。

(注) 景況判断BSIは、前四半期と比較しての「上昇」-「下降」社数構成比。

現状判断			見通し	
5年7-9月	10-12月	6年1-3月	4-6月	7-9月
▲1.8	+5.0	▲9.9	+3.1	+6.3

(参考) 規模別・産業別（現状判断・6年1-3月） (ポイント)

（全産業・規模別）		（全規模・産業別）	
大企業	▲3.0	製造業	▲14.4
中堅企業	0.0	非製造業	▲6.3
中小企業	▲18.9		

2. 雇用（従業員数判断BSI）

- 現状判断（6年3月末）は「不足気味」超 (+35.9%ポイント)。
- 先行きは、「不足気味」超 (6月末+27.8%ポイント、9月末+25.1%ポイント) で推移する見通し。

(注) 従業員数判断BSIは、四半期末の「不足気味」-「過剰気味」社数構成比。

3. 売上高・経常利益（除く電気・ガス・水道、金融・保険）

- 売上高は、5年度通期では前年度比+1.5%の増収見込み。
- 経常利益は、5年度通期では前年度比▲10.2%の減益見込み。

4. 設備投資（除く土地、含むソフトウェア）

- 設備投資は、5年度通期では前年度比+21.5%の増加見込み。
- 製造業は同+9.3%の増加見込み、非製造業は同+80.6%の増加見込み。

(注) 調査対象は268社。回答率は83.2%。

景況感等に関する企業の声（ヒアリング結果）

【製造業】

- プラスチック製品向けの化学製品の価格転嫁が進展し、利益率が改善している。（化学・大手）
- 自動車向け製品の売上のウェイトが高く、一部自動車メーカーの生産停止により、受注が大きく減少している。（その他製造業・中小）
- 欧州では金利高により不動産需要が落ちており、建設投資が進んでいないほか、コロナ期の在庫調整も継続しており不調。また、中国の景気は一段と冷えている。国内でも人手不足等により公共工事が中止や延期となっているようであり、建機需要を阻害している。（その他製造業・大手）
- 中国における景気停滞の影響から、中国の工場で使用される FA 向け製品の受注が鈍化している。（情報通信機械・中堅）

（先行き）

- 生成 AI 技術向けの半導体投資が中国や韓国で旺盛であり、当社製品の受注残が積み上がっているほか、スマホや PC 向けのメモリ半導体も需要低迷が底入れし、今後回復してくることが見込まれる。（生産用機械・大手）
- 納入先の工作機械、建設機械メーカーが中国経済停滞の影響を受けており、受注が低調であり、今年の夏頃まで同様の状況が継続する見通し。（電気機械・中小）

（雇用関連）

- 退職者などの補充をするのが精一杯で、純増での雇用はできていない。中国景気の低迷が長引き、中国向けの在庫が捌けない製造業の中には工場勤務の派遣社員を切る動きが相次いでおり、当社ではそうした人材の受け皿として雇用している。（その他製造・中堅）

【非製造業】

- 日銀による金融緩和政策が維持され、住宅ローン金利も引き続き低水準で推移していることから、住宅需要は引き続き堅調である。世間的に老後資金への関心が高まっていることから、リースバックの問い合わせが増えている。（不動産・大手）
- 外国人客の予約は多い反面、国内客については直接予約は堅調なものの、企画旅行（旅行会社が販売する商品）が大手の旅行会社でも催行人数を満たせず中止になるなどしており、動きが弱い。（宿泊・中小）
- スーパー内で営業しているところ、客足が伸びていないことに加え、仕入価格の上昇を必ずしも価格転嫁できておらず、厳しい状況。（小売・中小）

(先行き)

- 株高の状況が続く中、新NISAが始まったことで、既存顧客による非課税枠を活用した株取引が活発になっている。翌期においても同様の状況が続く見通し。(金融・中堅)
- 万博について、建設業界の人手不足の問題から、当社及び関連会社へ地域を跨いだ工事の依頼が来ており、4月以降工事に着工する予定。(建設・中小)

(雇用関連)

- 運転手については慢性的に不足しており、業務の再編などを余儀なくされている。つなぎ止めのため、ベアを含めた賃金アップを昨年以上の水準で実施する予定。(運輸・中堅)